

育児Q & A 「なんでもポイポイ投げてしまいます」

(1歳前後のお子さんの保護者からよくある相談です)

1歳くらいになると手に持ったものを「ポイ」と落とすように投げることが出来るようになってきます。小さい子どもも今まで出来なかったことが出来るようになると、嬉しくて同じことを何度も繰り返して楽しめます。投げるという行為は、自分がポイとしたものが、遠くに飛んでいく様子が目で見て分かるので、楽しいのでしょうね。でも、固いものや割れてしまうようなものを投げてしまったりは危険ですし、食べ物などを投げて遊んでしまうのは困ってしまいます。

出来るようになったことが楽しくて繰り返しているのであれば、投げても大丈夫な物(ボールや新聞紙を丸めた物など)や場所を用意し、十分に楽しめるようにすることもひとつの方法です。固いものなど、危ないものを投げようとした時には、投げる前に「優しくね。そっと置いてね。」と伝えたり、投げてしまった時には「危ないよ」「お友達に当たったら痛いよ」などと伝えていくと良いでしょう。食べ物を投げてしまった場合は「おいしいよ。モグモグって食べて欲しいな(食べてくれたら嬉

しいな)」とお父さん、お母さんの気持ちを伝えたり、「ママ(パパ)も一緒に食べよう!」と同じものを一緒に食べる楽しさに気持ちが向くようにしてみましょう。

投げた時に、お父さん、お母さんがいつもと違った反応をすると、その反応が楽しくて、遊んでもらっていると勘違いして投げてしまう場合もあります。これは「投げる」という行為だけでなく、他の行為にも当てはまります。まだ善いこと、悪いことの判断ができない時期ですから、お父さん、お母さんの反応でお子さんは判断しているのです。お父さん、お母さんの反応によっては、褒められていると感じたり、お父さん、お母さんが喜んでくれていると思ってしまう、繰り返し投げてしまっている場合もあるのです。ですから、過度に大きな声を出さずに、お子さんにもわかるように「投げる物ではない」ということを、その都度、根気強く真剣に教えてあげましょう。何度も繰り返し伝えていくことで、少しずつ「これは投げるものではない」といことが伝わっていきます。

参考:加部一彦、佐々木 聡子監修(2008)『Q&Aですっきり! 育児のお悩み解決 BOOK』NHK 出版

地域子育て支援拠点事業(ひろば型)

ほっと れもんてい

2014年 春号 No. 40

(平成26年4月1日発行)

黄色いたんぽぽや青い小花のオオイヌノフグリなど、春の訪れを告げる小さな花々がそこかしこに咲き、柔らかな色に包まれる季節になりました。外に出かけるには良い季節ですね。お子さんと一緒にお散歩を楽しみながらほっとれもんていには是非遊びに来てください。いつでもお待ちしております。



育児のヒント

皆様の育児の参考にしていただけたらと、『育児のヒント』を記載しています。

今回は、あゆのこ保育園園長 町田和子先生です。

「叱らないで しっかり育てる」

あゆのこ保育園では3月に29名の子どもたちが卒園し、この4月から、新たに30名のお子さんを迎えました。特に小さい年齢の子ども達の保育室からは泣き声の大合唱が……。お子さんにとっても保護者の方にとっても、ちょっぴり辛い季節ですね。

毎年3月にはクラス懇談会を開催し、次年度の保育についてお伝えしています。「そろそろ2歳だけど、トイレトレーニングは？」など、アンケートでお寄せいただいたご質問等にもお答えしながら、子ども達の育ちについて丁寧にお伝えしています。

2歳くらいになると、「自我が強くなってきたが、しつけはどう行ったらよいか？」と気にされる保護者の方も多いようです。

あゆのこ保育園では、育てたい子どもの姿として、「良いこと・悪いことが分かり、判断して行動できる子ども」を掲げています。「しつけ」というと「悪いことをしたらビシッと叱る」と考えがちですが、私たちが大切にしているのは、「叱らないで、しっかり育てる」という方法です。「叱られるからやらない」ではなく、自分で考えて行動できる子どもに育ててほしいと、心から願っています。保護者の方も同じお気持ちではないでしょうか？

では、「叱らないで、しっかり育てる」ためにはどうしたらよいのでしょうか？ 私たちが保育の中で心がけていること、また保護者の方にお伝えしていることは以下の3つのことです。

① 「まず、子どもに十分な愛情を注ぎましょう」

子どもは、自分のことを愛してくれる、大好きな大人の言うことはちゃんと聞くことが出来ます。子どもたちが大人の言う事を穏やかに受け入れるためには、愛情が満たされ、情緒が安定しているこ

ほっと れもんてい

(あゆのこ保育園内)

〒243-0032

厚木市恩名1丁目10番38号

電話・FAX: 046-222-6055

あゆのこ保育園HP

<http://www.ayunoko.ed.jp/>

ほっと れもんていブログ

<http://lemontea-ayunoko.blogspot.jp/>



ほっと れもんていは、

地域子育て支援拠点事業(ひろば型)

として厚木市より委託されています。

開設日: 月～金曜日 (祝日を除く)

開設時間: 9:30～16:00

11:30～13:00 はお休みとなります。

利用の際の予約や登録は要りません。

開設場所: ほっと れもんてい (あゆのこ保育園内)

13:00～15:00: 園庭開放

14:00～16:00: 乳児用砂場開放 (4月～10月)

お子様と自由に遊んで頂けます。

お越しの際は、あゆのこ保育園の駐車場をご利用いただけます。台数に限りがございますので、ご了承ください。

近年、テレビ、ビデオ、ゲームなどの使用が日常的になるにつれ、言語や社会性の発達に遅れが見られることが懸念されています。テレビ、ビデオなどの視聴と発達の遅れに因果関係を証明するまでには至っていませんが、言葉の遅れや人とのコミュニケーションがとりにくい、落ち着きがないなどの様子と関連があるのではないかと心配されているのです。これを受けて、日本小児科医会や日本小児科学会などから提言が出されています。いずれも、2歳以下の子どもにはテレビ、ビデオ視聴は控える、授乳中や食事時のテレビ・ビデオの視聴はやめるなど、テレビ・ビデオを視聴する際の注意について謳われています。

「子どもは見ていないから」と大人が自分の見たいテレビを次々と見ていませんか？テレビやビデオをおとなしく集中して見ているからといって長時間視聴していませんか？テレビやビデオを視聴することによって、お父さん、お母さんの話しかけが減る可能性があります。また、一度

にいくつかの音が混じりながら耳に入ってくることによって耳の聞こえ方に影響することが懸念されます。テレビ・ビデオ・ゲームなどを利用する際には、時間を決めること、大人と一緒に見て歌ったり、一緒に楽しむ、乳幼児にも使い方を伝えていくなどの配慮をしましょう。

お父さん・お母さんの話しかけは、ことばの発達だけでなく、お子さんのこころや体の発達に大きく影響します。お父さん、お母さんの話しかけに、きっとお子さんは言葉だけでなく、手や体、いろいろな表情で一生懸命何かを伝えてくるでしょう。どうしてもテレビやビデオを見てしまう場合は、思い切って戸外へお出かけしてみましょう。お散歩している時、何かを見つけた時、是非お子さんに話かけてみてください。きっと、全身を使って何かを伝えてくれるはずです。ほんわかした会話を楽しんでみてください。

参考:チャイルドヘルス VOL.16 No3



今月の絵本

～お勧め絵本のご紹介～

「サンドイッチ サンドイッチ」

小西英子/作

(福音館書店 2005年 4月発行)



サンドイッチが出来上がっていくお話です。表紙を開くといろいろな種類のパン、そしてサンドイッチの中身になる材料が描かれており、“どんなサンドイッチが出来上がるのだろう！”と、始まりからわくわく感が感じられる絵本です。

まずはパンにバターを塗って、次に中に挟む材料を順にのせていきます。レタス、トマト、チーズにハム…その他にも色々な材料がページをめくるごとに一品ずつ出てきます。どの食材も、まるで実物の様に繊細に、みずみずしく描かれているので、小さな子どもにとっては、生活の中で目にしているものと一致しやすく、分かりやすい絵本です。また、パンにのせる前はまん丸のレタスやトマトが、のせる時には1枚ずつはがした状態になったり、輪切りのトマトになったりして描かれているので、食材の変化も楽しめ、食欲もそそられます！

子どもは知っているものが出てくると、とても嬉しいものです。絵本に限らず、知っているものを見つけると指差してお父さんやお母さんに知らせて喜ぶ姿は、ご家庭でもよく見られるのではないのでしょうか。小さいうちはお話を読むという方法だけではなく、知っているものを見つけ指差して楽しんだり、「トマト！」「きゅうり！」と言葉にしてみたり、パクパクと食べる真似をしてみたりなど、様々に親子で楽しんでみることもお勧めです。少し大きくなると、出来上がっていく変化が楽しめるようになり、「サンドイッチ食べたい！」「作ってみたい！」というお子さんもいるかもしれませんね。サンドイッチの出来上がりが楽しみな、お腹がすいてくる絵本です。



とが必要です。言う事を聞いてくれないと感じたら、お子さんの気持ちを受け止めてあげられているか・・・、改めて振り返ってみましょう。

②「親がしてほしいことは、分かりやすく教えてあげましょう」

初めてのことはできなくて当然です。分かりやすい言葉で、分かるように教えてあげる必要があります。そのために大きな声を出す必要はありません。静かにやさしく、丁寧に伝えてあげましょう。2回目もまた同じことをするかもしれません。その時も、同じように、繰り返し根気よく伝えてください。そのうちに、お子さんの行動に変化が現れたら、その時はたくさん褒めてあげてください。子どもは褒められることで、すべき行動を覚えていきます。

③「“だめ・いけません” “まってね”を必要以上に言わないようにしましょう」

日頃からさまざまな場面で行動を抑制されたり、大人の都合で必要以上に待たされたりしていると子どもたちはストレスを感じます。ストレスがたまるとイライラしてきます。これは大人でも同じですね。「だめ」と言わなくて済むように、また、必要以上に待たせることのないように、大人側が工夫をすることが大切です。ストレスを感じることなく、情緒が安定していれば問題行動も減り、叱る必要もなくなりますね。

子育てで日々大変と思います。大人もストレスがたまると子どもを叱ることにつながってしまいますね。そんな時は「ほっと れもんてい」で息抜きをなさってください。 町田 和子



食育メモ「座って食べるこって難しい」

お子さんが歩き始めると、気になるものがあるとすぐに動いてしまい、落ち着いて座って食べるのが難しいことがあります。椅子の上に立ってしまったり、後ろを向いてしまったり、困ったなあと思われる方も多いでしょう。座って食べることはお子さんに伝えていきたい食事のマナーの一つですね。落ち着いて座って食べる環境作りから始めましょう。

まずは机と椅子の高さをお子さんに合わせます。背もたれがあり、足がしっかりとつく安定感があるものが良いです。足が浮いていると落ち着いて食べることができないので、足裏が床(ハイチェアの場合はのせ板)にしっかりとつくように調節してあげましょう。また机の高さも、座った時に胸の高さになるくらいに座る座面を合わせます。座面が広すぎる場合は背中にクッションを入れるるなど調節してあげると落ち着いて座れます。そして、お子さんが食事に集中できるよう、お子さんが気

になってしまう玩具は見えないところにいったんお片付けしたり、テレビなど気になる音は消しましょう。「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつで食事の時間の区切りをつけ、“玩具で遊ぶのは「ごちそうさま」してから“ということを、お子さんに根気強くお話していきましょう。

落ち着いて食事を食べるためには、お腹が空いていること、食事が楽しいと思えることが大切です。お腹が空いていないと食べる気も起りませんし、それよりも遊びたくなってしまふからです。少しずつ生活リズムができてくる時期ですから、日中は体を動かしてお腹を空かせるなど、お腹のすくりズムを作りましょう。そして、子どもは真似をすることが大好きですから、お父さん、お母さんと一緒に食べることで、大人が食べる見本となってお子さんに“おいしい”“一緒に食べると楽しい”を伝えていきましょう。お友達と一緒に食べることも良いですね。

参考:小池澄子監修(2010)『いちばんやさしい きほんの幼児食』成美堂出版